

調査研究部会報告

「国民読書年プロジェクト in おきなわ」開催レポート 実行委員会のプロジェクトヒストリーを補助線に

望 月 道 浩

はじめに

周知のとおり、去った2010（平成22）年は「国民読書年」でした。本稿では、「国民読書年プロジェクト in おきなわ実行委員会」として取り組んだ事業について、主として本実行委員会の立ち上げから開催に至る経緯についてプロジェクトヒストリーをたどる形をとりながらご報告いたします。なお、本来であれば、本稿は『沖縄県図書館協会誌』第14号にてご報告すべきところ、当該プロジェクトの開催が2010年12月であったため協会誌第14号への掲載が叶わず、本誌第15号でのご報告となりますことご了解ください。

さて、本実行委員会の具体的なプロジェクトヒストリーに入る前に、「国民読書年」が定められた経緯から簡単に振り返ってみたいと思います。

「国民読書年」は、2008（平成20）年6月6日の衆参両院本会議で「国民読書年に関する決議」が全会一致で採択されました。決議は、文字・活字文化振興のために「政官民協力のもとで、国をあげてあらゆる努力を重ねること」を宣言したものでした。その後、同年6月16日には、「国民読書年」国会決議に関する報告集会¹が、財団法人文字・活字文化振興機構の主催のもと憲政記念館講堂で開催されています。当集会には、当時の渡海紀三朗文部科学大臣をはじめとする活字文化議員連盟、図書議員連盟、子どもの未来を考える議員連盟の各長列席のもと、次のような

アピールが報告集会の最後になされました。

今回の決議は、ネット社会が広がる時代だからこそ、国民一人ひとりの自主的な読書活動が、日本の将来にとって極めて大切であることを訴えており、私たちはこの立法府の期待にしっかりと応えてまいります。

本報告集会における各界からのご提言・ご意見を踏まえ、読書教育の拡充、新聞を活用した教育活動支援、学校図書館・公共図書館の充実、人材育成による読書推進の基盤づくりなど、言語力向上に取り組むとともに、「国際子ども読書年に関する決議」の採択を国連総会へ提唱し、内外に「読書立国」をめざす日本の姿を強くアピールします。（平成20年6月16日「国民読書年」国会決議に関する報告集会でのアピールの一部）

この報告集会には、筆者も参加していましたが、「国際子ども読書年」へ向けて、また「読書立国」として日本がアジアや世界のなかでのイニシアチブを発揮していくのだという強い思いが込められているようにも感じられました。「国民読書年」がゴールではなく、人類の資産としての文字・活字文化を発展・継承していくためにも国際的な視野から読書を考えていく契機として考えられているようです。2000年の「子ども読書年」から2010年

の「国民読書年」へ引き継がれてきた国を挙げての読書への想いが、2020年にはどのように花開いていくのか期待をしつつも、それを支えていくのは‘子どもと本’や‘図書館’に携わる私たち大人の使命にもなっていることをあらためて考えさせられる報告集会でもありました。

このように、「子どもの読書活動の推進に関する法律」〔2001（平成13）年〕や「文字・活字文化振興法」〔2005（平成17）年〕の制定とともに、具体的な施策の一つとして「国民読書年」が決議されその展開が図られたことは、大きな意義があったといえるでしょう。

実行委員会の立ち上げ

2009年末頃「国民読書年」を迎えるにあたり、全国各地で読書に係わるイベントを開催しようという機運がありました。沖縄県内においても学校図書館司書の方々より、有志で協力して何かできないかという話があったことが本プロジェクトのそもそもの契機と仄聞しています。筆者も沖縄国際大学の山口先生にお声がけいただき有志メンバーに加えていただく機会を与えていただきました。

2010年2月27日、第1回のプロジェクト会議が、恩納村立仲泊小中学校図書室に於いて11名の有志が集い開催されました。第1回会議では、主にプロジェクトの目的と内容について話し合われました。

プロジェクトの目的については、以下の3点を挙げそれらに向けプロジェクトを推進することとなりました。

【プロジェクトの目的】

※第1回会議で提案された目的をもとに、第2回会議で一部修正がなされたものを記載。

1) 「国民読書年」に関わるイベントを沖

縄県内各地で開催することで、読書の意義を県民に広く伝える。

2) 読書に関連する県内の関係者が一同に集う・つながる機会を設け、今後の沖縄県の読書活動の在り方をともに考えるきっかけとする。

3) 図書館司書がこれまでに蓄積してきたノウハウをベースとして、地域文庫や書店、大学教育機関など、様々な団体との協力を得てイベントを実施することで、司書の重要性・専門性を広くアピールする。

また、プロジェクトの内容については、うるま市でかつて3ヵ年に亘って開催されたブックフェアの取り組みをベースにしながら検討することとなりました。プロジェクト開催時期についても、12月の土曜日または日曜日での開催をめざす方向で活動することが確認されました。まさに手弁当で集った有志メンバーではありましたが、当時の会議で振る舞われたお茶菓子の数々もさることながら、プロジェクト内容の検討においてもそれに劣らず豊富なプログラムが提案され充実した第1回の会議となりました。また、この会議においてプロジェクトの名称についても検討がなされ、当初「沖縄県国民読書年プロジェクト」と称しておりましたが、のちの第3回会議において名称冒頭に「沖縄県」を付すと県主催のものとの誤認されるとの指摘を踏まえ「国民読書年プロジェクト in おきなわ」と名称を変更しています。

このようにプロジェクトの大枠が、第1回会議のなかだけでも具体化できたことは、特筆すべきことではなかったかと思います。これまで沖縄の各図書館で取り組まれてきた多様な実践の蓄積があったからこそ、実りある

第1回の会議となり、プロジェクトの第一歩を踏み出すことができたのではないかと思います。

蛇足になりますが、第1回会議当日未明には、沖縄本島近海で発生した地震により緊急地震速報が流れ、沖縄県糸満市で震度5弱を観測し、津波警報も発表されるなど、筆者としては強く印象に残るプロジェクト実行委員会立ち上げの一日となりました。

第2回プロジェクト会議の開催

2010年5月22日、第2回プロジェクト会議が第1回と同じく仲泊小中学校にて開催されました。新メンバーも加わり当日の参加者14名での開催となりました。

審議事項は、①イベントの実施方法、②各種団体への後援・共催の依頼、③イベントの内容と担当者、の3点について検討がなされました。

①については、予定として‘うるま市シビックホール’、‘那覇市立真嘉比小学校’、の2会場での開催をめざすことで進めていくこととなりました。それに伴い、②の依頼についてもプロジェクト実行委員が分担し、各関係諸機関への後援・共催の依頼を行っていくことが確認されました。それに伴い、「開催趣意書」の早急な作成が求められることとなりました。③についても、具体的に9つの企画内容が選定されるとともに担当者を確定し、あわせて広報についても、実行委員の大谷氏によりブログ（図1参照）などを活用して情報発信していくことが確認されました。

第2回会議では、プロジェクト全体の内容がより具体化してきたことにより、各企画グループ内での詳細な企画内容の検討の段階へさらに進展することのできた会議となりました。

た。

図1 「よむ・そだつ・つながるブックフェア」ウェブサイト



<<http://okinawadokusyo.wordpress.com/>> (2011年9月29日採取)

第3回プロジェクト会議の開催

2010年7月31日、第3回プロジェクト会議が前回に引き続き仲泊小中学校にて開催されました。イベント開催日程をうるま市開催12月5日、那覇市開催12月19日のいずれも日曜日9時から16時として具体化したのもこの会議においてでした。この会議における主な審議事項は、①ブックフェアの実施方法、②イベントのタイムスケジュール及び担当者・責任者の確認にありました。

①については、沖縄県書店組合からの協力を得るべく関係各位への交渉を行うこととしました。②については、各企画イベントについての開催時間帯の検討がなされ、当日のプログラムとして組み上げていくことができました。また、本会議において開催趣意書（資料1、2参照）についても確認がなされました。イベントへ向けての本格的な準備がはじまる時期となりました。

資料1 開催趣意書(表)

国民読書年プロジェクト in おきなわ
「よむ・そだつ・つながる ブックフェア」
開催趣意書

1. 日時： 中部地区 2010年12月5日(日)9時~16時
 那覇地区 2010年12月19日(日)9時~16時
 (参加費無料)
2. 会場： 中部地区 うるま市シビックホール(〒904-2392 沖縄県うるま市勝連平安
 名3047番地)
 那覇地区 真嘉比小学校(〒902-0068 沖縄県那覇市宇真嘉比209番地)
 国民読書年プロジェクト in おきなわ実行委員会(実行委員長 望月道雄)
 (※中部地区での開催はうるま市教育委員会が主催、国民読書年プロジェクト
 が協力という形態で実施する)
3. 主催： 国民読書年プロジェクト in おきなわは、「朝の読書」の実施や、読書
 グループの活性化など、様々な取り組みがなされてきました。こうした取り組みをさらに
 展開させることを目的として、国会では、2010年を「国民読書年」に制定し、政官民協力
 の下で、国をあげてあらゆる努力を重ねることが決まっています。
4. 後援： 沖縄県教育委員会・沖縄地域風土産業連絡協議会・沖縄県図書館協会調査研究
 部会、那覇市教育委員会
5. 主旨
 「読書」は、私たちの人生をより豊かなものにするにはもちろん、感性を磨き、表現
 力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠く
 ことのできないものです。
 日本では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」(2001年)、「文字・活字文化振興法」
 (2005年)など読書に関する法制度が整備され、各地において、「朝の読書」の実施や、読書
 グループの活性化など、様々な取り組みがなされてきました。こうした取り組みをさらに
 展開させることを目的として、国会では、2010年を「国民読書年」に制定し、政官民協力
 の下で、国をあげてあらゆる努力を重ねることが決まっています。

国民読書年プロジェクト in おきなわは、「国民読書年」の理念を沖縄県内において実現す
 ることを目的として、2010年2月27日に発足致しました。主なプロジェクトとしては、
 沖縄県中部地区と那覇地区において、「よむ・そだつ・つながる ブックフェア」を開催し、
 読書の意義を県民に広く伝えることを目指しております。
 本イベントでは、県内各地の学校図書館司書、公共図書館司書、地域文庫関係者、学校
 読み聞かせボランティア、教育関係者など、地域や職種を問わず、「読書」に関心をもつ様々
 な人々が一同に集う、つながる機会を取けるとともに、イベント参加者と共に今後の沖縄
 県の読書活動や読書振興のあり方を語り合うきっかけとしたいと考えております。

6. プログラム
 メイン会場： ブックフェア(児童書、絵本の朗読会)・ワークショップ(しおり・読み作り)・
 ハネル展示(学校図書館や地域文庫の活動紹介)・国民読書年ポスターコンテスト也
 サブ会場： 読み聞かせ講座・読書会(読み聞かせ・アニメーション・ブックトーク)・調べ
 るための本の読み講座・科学読み物実験ショー 也

資料2 開催趣意書(裏)

以上の趣意を御理解の上、イベント成功のために、皆様のお協力をお願いいたします。

2010年8月1日
 国民読書年プロジェクト in おきなわ実行委員会
 実行委員長
 望月道雄(琉球大学教育学部准教授)

実行委員
 伊波橋子(恩納村立仲泊小中学校司書)
 大谷周平(琉球大学附属図書館)
 喜納志穂子(那覇市立石嶺中学校司書)
 具志堅串子(うるま市立赤道小学校司書)
 國吉橋子(元沖縄県立図書館司書・沖縄国際大学非常勤)
 奥星美奈子(読谷村立図書館司書・沖縄国際大学非常勤)
 鹿間味利美子(うるま市立具志川東中学校司書)
 島村正美(沖縄市立中の町小学校司書)
 玉城久美子(那覇市立大道小学校司書)
 手塚根千穂子(沖縄県立北山高校司書)
 斎藤華子(那覇市立首里図書館司書)
 野里純(那覇市立真嘉比小学校司書)
 山内絹子(うるま市立伊波中学校司書)
 山川善美子(沖縄地域風土産業連絡協議会)
 山口真也(沖縄国際大学総合文化学部准教授)
 山城健子(うるま市立あげな中学校司書)
 (五十音順)

事務局
 〒901-2101 沖縄県宜野湾市宜野湾2-6-1 沖縄国際大学
 総合文化学部日本文化学系文化情報学研究室
 TEL/FAX 098-893-0445
 e-mail yamaguchi@oku.ac.jp
 (担当： 山口)

第4回プロジェクト会議の開催

2010年9月4日、台風9号が接近するなか第4回会議が最初のイベント会場として予定されている「うるま市シビックセンター研修室C」にて会場の下見も兼ねて開催されました。

各企画イベントの詳細が固まりつつあるなか、実際の会場での会議は、イベント当日への期待が高まる一方、まだ先のこととされていたイベントが目前に迫ってきたことを実感することのできる機会となりました。「科学ショー&調べ学習」企画を担当していた筆者としては、焦りも感じることとなりました。第4回会議では、ブックフェアに関わり沖縄県書店組合・球陽堂書店常務の上野武和氏と東販沖縄サービスセンター所長の太田耕造氏とで打ち合わせた内容をふまえての報告がなされました。うるま市では、うるま市教育委員会よりうるま市の書店に交渉すること、那覇市では球陽堂書店と東販に依頼することで確認がなされました。ブックフェアについては、企業としての利益も求められるところがあるなか、プロジェクト実行委員の國吉先生、山口先生の尽力により、球陽堂書店の上野氏と東販の太田氏からも色よい回答が得られたことは、本プロジェクトの成否にもかかわる

写真1 うるま市シビックセンターでの会議風景



重要なことであっただけに大きく弾みのつく出来事でもありました。

第5回プロジェクト会議の開催

うるま市での第1回イベント開催まで1ヶ月となった2010年11月5日、那覇市開催会場として予定されている那覇市立真嘉比小学校にて、実質の最終会議が催されました。

写真2 那覇市立真嘉比小学校での会場確認風景



イベント当日の各実行委員の動きを確認するとともに、広報の方法についても、ポスターやリーフレットの作成、マスコミ各社へのアプローチなどを行い積極的に広報活動を展開していくことが提案されました。

うるま市、那覇市での広報ポスター（資料3、4、5参照）については、野里氏をはじめとする那覇市の実行委員のみなさまにより、当日の多彩な企画イベントが映えるポスターが作成されました。

また、‘学校図書館’や‘学校司書’のことを来場される多くの方々知ってもらうために、入場者に配布するリーフレット（資料6、7参照）が実行委員の山口先生により作成されました。リーフレット内には実行委員の喜納氏により、かわいいイラストも描かれています。

各関係機関からの後援・共催・協力の了解

も得られ、いよいよ第一弾となるうるま市での開催当日へ向けて実行委員の期待が大きく高まりつつある時期でもありました。次に実行委員全員が集まるのは、開催前日の会場設営等の準備となることを確認し散会となりました。

資料3 うるま市開催の広報ポスター

資料4 那覇市開催の広報ポスター(その1)

資料5 那覇市開催の広報ポスター(その2)

学校会場)に盛大に開催することができました。いずれの会場においても好天に恵まれ、来場者は各会場ともおよそ300名と多くの子どもたちやその保護者の方々、地域のみなさまにお越しいただきました。

プロジェクト当日の様子については、うるま市開催は具志堅氏より、那覇市開催は野里氏より別稿にて掲載されますので、そちらに譲ることとし拙稿では割愛いたします。

成果と課題


本プロジェクトの成果の一つとして、本(読書)を通してあらゆる人々が集い、交流が生まれ、あらためて本(読書)について振り返ることのできる場が提供できたのではないかと考えます。最近では‘ソーシャルリーディング’という言葉がにぎわっていますが、いわゆる‘読書体験の共有’というものを具現

プロジェクトの開催

ここに記したプロジェクト会議のみならず、実行委員や関係各位のご協力により、会議以外での各企画イベントの打ち合わせなども多岐に亘り行われてきました。「国民読書年プロジェクトinおきなわ-よむ・そだつ・つながるブックフェア-」は、このような多くのみなさまのご理解とご協力により2010年12月5日(うるま市シビックセンター会場)、及び、12月19日(那覇市立真嘉比小

資料6 リーフレット(表)

2010 国民読書年 じゃあ、読もう。



ごぞんじですか? がっこうししょ 「学校司書」

【学校図書館のお仕事を担当する専門・専任スタッフ】



こじんぞんじしよ
国民読書年プロジェクト in おきなわ

市民のみなさまへ

日本では、「学校図書館法」という法律の下で、各学校に図書館を設置することが義務づけられています。

学校図書館の仕事を担当する専門・専任のスタッフを「学校司書」と呼んでいます。

学校司書は、司書教諭や図書館系の先生たちと協力しながら、学校図書館教育の充実につとめています。

主な知識【その1】
沖縄県は学校図書館先進地域

沖縄県には小中学校も含めて、多くの学校で学校司書が専門・専任のスタッフとして働いています。あまり知られていませんが、実は県外の小中学校にはフルタイムの学校司書はほとんど配置されていません。1日2、3時間勤務、または2、3校をわけしめて担当している学校司書もたくさんいます。子どもたちが学校にいる時間帯でも図書館が開いている地域も多いのです。沖縄県は「学校図書館先進地域」。

ごぞんじでしたか?

主な知識【その2】
図書室ではなく図書館?

小中学校の頃、学校図書館をどんなふうに呼んでいたか? 多くの方が「図書室」と呼んでいたのではないのでしょうか?

子どもたちは、大人がびっくりするくらい知的好奇心にあふれています。その気持ちに答えるためには1つの図書室だけでは本が足りない場合もあります。そんなとき、学校司書は近所の公共図書館や大学図書館、国立国会図書館などさまざまな図書館と連絡をとりあひながら、情報を集め、子どもたちの「知りたい」にこたえています。

学校の図書室も図書館という大きなネットワークの一部です。そして、ネットワークを機能させるには専門知識をもつ担当者が必要です。無限の広がり豊かなサービスをイメージさせる言葉として、私たちは図書室を「学校図書館」と呼んでいます。

国民読書年プロジェクト in おきなわ
代表 名: 琉球大学教育学部 望月道浩
事務局: 沖縄国際大学文化情報学研究室
〒901-2101 沖縄県宜野湾市宜野湾 2-6-1
098-893-0445 yomiguchi@okiiu.ac.jp

資料7 リーフレット(裏)

2010 国民読書年 じゃあ、読もう。

おきなわけん がっこうししょ わたしたち沖縄県の学校司書は こんなことをしています!



授業バックアップ

授業研究文献や教育書などを豊富に揃え、先生たちの授業づくりを支援しています



地域文化のために

地域の情報・資料を広く集め、地域文化を次世代に伝えていきます

読書のプロ

読書の楽しさを伝え、子どもたちの世界を広げつなげていきます



空間コーディネーター

子どもたちがほっとできる居心地のよい空間をつくらしています

子どもたちの
よみたい!
知りたい!
にこたえ、
自立した個人を
育てています

カウンセリングマインド

読書案内を通じて子どもたちが抱えるさまざまな問題を解決するための支援をしています



情報の探偵

利用者が求める情報・資料は草の根を分けてでも探し出します

調べ学習サポート

調べ学習のサポートを通じて、子どもたちの学ぶ意欲と情報リテラシー(情報収集・整理・活用能力)を高めています



読書アドバイザー

保護者や地域の皆様とともに、子どもたちの読書環境について考えています

化したプロジェクトとなったのではないのでしょうか。

課題としては、今回のプロジェクトについては、複数会場での開催を望む来場者からの声に応えきれなかったということがあげられるかもしれません。しかしながら、今回のプロジェクトが「核」となり、そこから線・面へと読書や学校図書館、公共図書館への理解の拡大・深化へ結び付けられる礎となっていく可能性をひらくことができたのではないのでしょうか。「国民読書年」に限らず、継続的な読書の営みに資するプロジェクトのあり方について、多くの方々と共に考える手がかりとしてこの課題が生かされれば幸いと考えます。

謝辞

筆者は、はからずも本プロジェクト実行委員長を仰せつかり務めてまいりました。この不案内な委員長を企画から開催に至るあらゆる場面で、実行委員のみなさまはもとより、関係諸機関のみなさまにもご理解ご協力いただきながら、プロジェクトの成功へ向け多大なご支援を賜りました。この場をおかりしまして厚く御礼申し上げます。

もちづき みちひろ：琉球大学

♪みんなで歌いたい「日本の名曲」目録♪

歌い継がれる名曲案内

音楽教科書掲載作品10000

A5・1,060頁 定価12,915円(税込) 2011.1刊

1949～2009年の小・中・高校の音楽教科書に掲載された楽曲を作詞者・作曲者ごとに一覧できる初のツール。世代を超えて歌い継がれる童謡・唱歌、クラシック、外国民謡から近年のポピュラー音楽まで全作品を掲載。作品名から引ける索引付き。

子どもたちが知りたい・調べたいときに

子どもの本 国語・英語をまなぶ2000冊

A5・320頁 定価7,980円(税込) 2011.8刊

国語・英語をまなぶ小学生を対象に書かれた本2,679冊を収録。内容紹介付きで、公立図書館・学校図書館での本の選定・紹介・購入のガイドとして最適。

沖縄を知る事典

A5・520頁 定価8,925円(税込) 2000.5刊
特有の風土、歴史、文化など、本当の沖縄を知るための読む事典。

沖縄を深く知る事典

A5・510頁 定価8,925円(税込) 2003.2刊

続刊

「沖縄を知る事典」編集委員会 編

日外アソシエーツ

〒143-8550東京都大田区大森北1-23-8 TEL.(03)3763-5241 FAX.(03)3764-0845
E-mail:sales@nichigai.co.jp http://www.nichigai.co.jp/